

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2893000360		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社 伊丹支店		
事業所名	武庫の里ケアハートガーデン グループホームときと		
所在地	兵庫県尼崎市武庫の里2丁目26-20		
自己評価作成日	平成25年2月15日	評価結果市町村受理日	平成25年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2-2-14		
訪問調査日	平成25年3月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「パーソンセンタードケア」の実践(ケース会議の充実・アセスメント重点化指向)・「チームケア」の充実強化(チーム会議の活性化)、「地域共生」の推進(ボランティア・地元住民・ケアマネ・同業者連絡会とのネットワーク強化)に力を入れています。入居者様には本人のやりたい事を実現できるように支援し、その方がこれまで送ってこられた生活をグループホームに入居後も継続できる様に取り組んでいます。また、スタッフ、協力医療機関、家族様と情報を共有し連携を密に図り、入居者様にとっても家族様にとっても安心して生活していただけるグループホームを目指しています。当グループホームは開放感をモットーに地域の方々や地域の事業者の方、家族様が入り易いグループホームでありたいと、日々スタッフ共々明るく入居者様と生活しています。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

①**理念に基づく運営**・「わたし達は、ご入居様に笑顔で寄り添い大切な時間を共に過ごし、ご家族様、地域の皆様とあたたかい絆で結ばれたい。時と共に・・・」を事業所理念とし、日々のケア実施において具現化するように努めている。②**本人本位の生活**・入浴や食事等の基本の生活においても個別要望を重視し対応するように努めている(入浴時間・希望メニュー聴き取り等)。また、調理・盛付け・配膳・下膳等も自身で役割を決めて職員と一緒にやっている。ボランティアによるレクリエーションも種類が多く、個人の希望するものに参加してもらっている。入居者お一人で喫茶店(お店とは連携している)に行つて憩いの時間を楽しまれる方もいる。③**地域交流**・町内会等の近隣の方々からの協力を多く頂いている。地域行事への招待も頂き参加をさせて頂き、入居者の楽しみ事にも繋がっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開業前にスタッフと考え理念を作成。毎朝の朝礼時には管理者、スタッフと唱和し、日々入居者様、ご家族様、地域の皆様を大切にしたい思いを込めて業務についている。	「笑顔で寄り添う」「大切な時間の共有」「家族、地域との絆」を軸に入居者と過ごす事業所運営を実践すべく職員一丸となって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店の方々の協力で一人で喫茶店へ行けたり、入居者様が一歩歩いてくると必ずグループホームまで声をかけて来てくださっている。	入居者と近隣の方々が顔馴染みとなっており、散歩中に声かけを頂いたり、秋祭り(時友神社)や「楽土と漫才の集い」(武庫地区会館)への参加時の歓待、また、多くの地域ボランティアの協力を得ている。	地域の方が気軽に立ち寄って頂けるような企画の実施を更に勘案されるとともに、地域の社会資源としての取り組みの継続に大いに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事やイベントに参加をしたり、近所の方が散歩時に声をかけてくださったり、花の苗や土をくださったり、グループホームで栽培した野菜などをお渡ししたり等、交流に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表の方や地域代表の方などに出席していただき、当グループホームの取り組みや現状を報告するとともに、地域の方からは地域行事のご案内をいただき入居者様とともにも地域行事に参加を行っている。	2か月に一度の運営推進会議では、事業所の報告(入居者状況、事業所の取組み等)のほか、参加者(家族、地域)からの意見や情報を受入れ、『絆』を結ぶよう取り組んでいる。地域との防災訓練や家族参加の認知症勉強会等が検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	一年目ということで運営面でわからない時は市へ問い合わせをしている。また、尼崎市グループホーム連絡会に活動参加して、市や他のグループホームとの連携に努めている。	尼崎市グループホーム連絡会(市、同業者参加)に出席し、情報の共有や課題の解決に活かしている。事業所の透明性確保・入居者の権利擁護の目的で介護相談員の受入れを予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠をしていない。1F・2F自由に行き来が出来た状態にしている。玄関にセンサーをつけている。身体拘束をしないケアにつとめている。	「身体拘束の廃止」は法人の基本理念であり、入居者の行動を制限する事案は、全て排除し、『寄り添い』『時間の共有』により安心・安全を確保している。	今後も、抑圧感のない自由な暮らしの支援を継続願います。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での高齢者虐待防止研修の実施は、もちろん、入居者様に対する言葉遣いなどにも注意を払うように指導している。	研修実施により認知症高齢者への虐待防止の基本を理解し、日々のケアにおいて、「不適切なケア」が生じていないかを職員相互で確認し合っている。また、『Goodjob & Thankscard』は職員のストレスマネジメントに奏功している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内で外部講師を招き、成年後見人制度についての研修会を開催し、当グループホームのスタッフも出席した。家族から相談があった際、制度について説明をしている。	現在、活用者がおられる。認知症高齢者への支援の一方策であり、職員全員が制度について理解している。家族からの相談にも適切に対応できている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時でも丁寧に対応している。疑問点や不安、相談事はしっかりとお話を聞き、ご理解と納得を得られている。	契約前に見学、資料(パンフレット、料金表)の配布を行い、質疑応答により不安・疑問等が極力生じない状態にして契約を締結している。また、重度化・終末期への対応方針も説明し理解を得ている。	家族からよくある質問をまとめ、今後の契約や職員教育に活かせる取り組みにも期待をします。(Q&A集の作成等)
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様のご意見やご要望が言いやすい関係性を常に意識している。ご家族と何事も話し合える信頼関係を構築し、入居者様のケアに反映させるように努めている。	運営推進会議、家族会、訪問時等、多様なチャネルで意見等を聴き取る機会を設けている。家族とは、強い信頼関係が築けており、口腔ケアの勉強会等の提案も受け実施している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からスタッフの意見や提案に耳を傾けている。また、月に一回にユニット毎の会議やケースカンファレンス会議、委員会ではスタッフからの意見や提案を聞く機会を設け、スタッフが自らやりがいをもって業務につくように仕向けている。	職員の総合力が事業所運営を左右するとの認識の基、意見・提案等の集約は常態となっている。各種会議や申し送り等様々な機会で見解等が具申されており、『加湿器』の設置は、職員からの提案で導入されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの働き方等を把握するように努力している。チームワークやスタッフの人間関係を常に大切にし、働きやすい職場環境を管理者とスタッフが意識しながら仕事をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修へ積極的に参加するように促し、現場に入り直接、個人指導を行いながら個人レベルUPを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	尼崎市グループホーム連絡会主催の研修会に積極的に参加している。また、同業者の方々からお話をお聞きしながら、サービスの質の向上に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の声や思いを大切にし、しっかりゆっくりとお話を聴くように努めている。ご本人本位の生活ができ満足し、安心していただける関係性を大切にしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人はもちろんのこと、ご家族の不安事や心配事をしっかりと聞きし受け止め、ご家族が安心して預けられるグループホームであること、またご家族との関係性を大事にしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族のお話し合いの中で必要とするサービスは何なのか見極めて、他のサービスへの説明や、ご希望があれば他施設の空き情報なども紹介している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事や得意で好きな事をご自由に日常生活の中で取り組んでいただいている。 また、スタッフと共同作業をする事で家庭的な役割分担ができています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族との関係性を入居されても大切にさせていただきたく、入り易いグループホームであるように努めている。ご家族が来られ時はお茶をお出しし、ゆっくりとお話ができる場と雰囲気を提供している。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅の御近所の方が面会に来られたりすることが多い。また、ご本人が入居前までされてきた生活を継続して入居されてからも自由にご本人本位でまかせている。その際はご家族と相談している。	馴染みの店への買い物や接骨院への同行、以前より通っていた喫茶店への「お一人でのお出かけ」(お店との連携)の支援、また、家族・知人等の面会も多く(月間100名超)、楽しい時間をもたれている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の性格や相性などをスタッフが良く把握し、入居者様同士が仲良く快適に過ごしていただける様に、日頃からスタッフが配慮するように努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去された方の告別式に参列させていただいたり、ご家族が他施設への入所を希望される際は、手続きのお手伝いや、ご相談に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にご本人から聞き取りを行い、困難な場合は、入居後に何を希望、要望されているのか表情や、しぐさ等を観察し、察知する努力をしている。	入居者との日々の係わりの中で、本人の思い・意向の汲み取り(対話も含めて)、ケアカンファレンス等を通じて職員間で共有している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ずご本人あるいはご家族からご希望を聴き取り、日々の支援の中で個別ケアを実践できる様に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の態度や言動、表情、体調面などすべてにおいてスタッフは日々良く観察し、ご本人が何を訴えようとしているのか理解しケアに努めている。また、スタッフ、管理者が報・連・相を徹底している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンス会議の話し合いで決定した事を介護計画に反映し、モニタリング記録を残している。	サービス担当者会議において、職員及び関係者の入居者の現況報告を共有し、介護計画を作成している。また、ケースカンファレンス会議(月1回)において、モニタリングを行い介護計画の見直しを随時に行っている。	今後は、モニタリング様式を工夫する等、担当職員全員の意見が把握し易いように検討して頂き、更に精度の高い見直しに繋がるように期待をします。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアなどを必ず記録に残し、スタッフ間の引継ぎ申し送り時や、申し送りノートを活用して情報を共有している。大きな問題点、課題についてはケースカンファレンス会議等で議論しチームで実践するように努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度状況判断を行い適切にスピーディな対応をしている。また、ご家族のご希望に沿えない際は、他のサービスを利用される方もおられる。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の支援をいただきながら、ご本人が要望される喫茶店に出掛けたり、馴染みの接骨院に通い続けるための支援をしている。地域の方、お店の方が見守りをいただいているお陰です。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の相談事や要望をDrに伝達したり直接、Drと話をいただいているケースもある。Dr、本人、家族、スタッフ、看護師の連携を大切にしている。	協力医(内科)の往診(隔週)に歯科の訪問も受けている。整形外科(リハビリ)への受診も必要に応じて支援している。また、急変時への医師等の対応も整備できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の些細な変化や体調の変化があれば必ず看護師に報告し指示を受けている。また適切な処置をしてもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関のDrやご本人、ご家族と相談しながら入院先を決めている。入院先の病院とは入退院時にはサマリー等をいただいている。	入居者に有用性の高い病院に入院できるよう支援している。入院中は職員が面会の頻度をあげ不安感の軽減に努めている。今後の生活に不具合が生じないよう退院時カンファレンスに参加している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず申し込みの際も説明し、契約時にも文書で説明している。その様な状態になられた際も再度説明する。現在のところ重度化の方はおられない。	重度化・終末期の状況については、事業所で「できる事」「難しい事」を明確にし、本人にとって望ましいケアになるよう家族・医師等関係者と連携しながら取組むようはかっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開業前に消防署で応急手当等の訓練を受けた。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年二回と決められている。二回目は近々実施予定。	年2回の消防・避難訓練(日中帯・夜間帯想定)を実施している。地域の方々と共に訓練が実施できるよう地区会長と検討(運営推進会議)している。	地域ぐるみの災害対策の取り組みが期待されます。実施に向けて今後も運営推進会議での検討を願います。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは対人援助のプロであるため、入居者様の言葉使いや声かけ、対応には気をつけるように徹底している。基本は言葉遣い、対応力であると指導している。	自尊心・羞恥心に配慮しながら、入居者と「笑顔で寄り添う」「大切な時間の共有」し、本人が望み、トライできる事柄へのさりげない支援が実践できている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人本位を大切にしているので、ご本人が希望する事や思いには耳を傾けている。スタッフが決め付けるのではなく何事もご本人に決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の時間割はあるが、ご本人の思いや体調などを勘案し、その人のペースや習慣を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は自力でお化粧をされる方もおられますし、少し困難な方はスタッフが声かけをしながら化粧を毎日楽しまれている方もいる。男性はひげを毎朝剃っていただく様に声かけをしたり、支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事を入居者様とスタッフが一緒に作り食事後の食器洗いも入居者様と共同作業に努めている。それぞれ入居者様で役割分担が自然にできている。食事作りは皆様、笑顔でされている。	メニューは調理委員が入居者の希望も踏まえて作成し、調理・盛付け、配膳・下膳等得意な部分を一緒に行い、楽しい『食』の時間を共有している。外食(喫茶、昼食ツアー等)も好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日24時間、水分量や食事摂取量を把握し記録している。入居者様の健康管理には気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず歯磨きと入れ歯を洗っている。夜間は必ず入れ歯を洗浄剤につけている。週一回、歯科医師と歯科衛生士さんが往診の上、口腔ケアをしていただき、スタッフも指導を受けている。また、Drの診断も受けている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行困難な方でも、スタッフが2人で歩行介助トイレまで誘導し、トイレでの排泄を必ず行っている。できるだけトイレで排泄していただけるように支援している。また、その方の排泄パターンを知り、失敗を減らす様にケアしている。	トイレでの排泄が継続できるよう、入居者個々人の排泄パターンやそのサインを把握し、状況に応じた支援(2人介助も)を行っている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ便秘薬は服用せず、食事や水分摂取には気をつけ自然排便を目指している。また、体操や散歩をし便秘予防に努めている。また、便秘時は果物や乳製品を食べていただいている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴したい方は入浴していただいている。入浴時間は自由にしている。個々人で習慣が違い個々の要望にまかせている。入浴前は必ずバイタルチェックは実施している。また、清潔に保つよう努力している。	週3回の入浴を基本とし、本人の希望で毎日入浴の方もおられる。ゆっくり、ゆったりと過ごす時間となるよう時間帯、入浴時間は本人が決めておられる。健康チェックは怠らず実施している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度で個々人の習慣にまかせている。眠れない方はフロアでTVを見られていたり、スタッフとお話をする事で安心して眠られる方もおられる。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書をファイリングしている。Drからは必ず薬の目的や副作用、用法、用量の説明があり、看護師がスタッフに申し送りノート等に伝達事項を記載してくれている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	まずは趣味や楽しみなどについて聞き取りを行い、グループホームでの楽しみや生きがいは何なのかをスタッフが推し量る事で日々の生活で実践いただく事を支援している。また、したい事ややりたい事を制限しないようにしている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人で出かけて帰られる方はご家族様の許可を得て外出していただいている。なお、ご家族様の支援で行きたいところに行っておられる方もおられる。また、ご本人の要望はスタッフができるだけ聞き入れ要望に応えている。	日常の散歩や買い物の他、地域行事への参加や季節毎のお出かけ(桜、コスモス、初詣等)は、入居者の希望により行き先を決定している。	個々の利用者により「外出支援の目的」も様々と考えられます。利用者の思いに沿った支援の継続を願います。また、家族との外出も計画に反映させて、利用者の不安への対応に繋げて頂くことに期待します。



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には自己管理、自己責任をお願いしているが、ご本人様の管理能力を勘案し、お金を持っていないとどうしても不安な方だと判断した時のみ所持していただいている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をもっている方もおられる。ご希望であれば電話を使用していただいている。また、手紙の返事を書いていただけるように支援している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた家庭的な雰囲気と南からの暖かい日差しが入居者様に喜んでいただいている。なお、清潔感と開放感を大切に広々とした空間がだせるように工夫している。また、お庭に植木や花、夏にはご家族様の協力で菜園を楽しむ事ができました。	リビングは適度な採光と広さが確保されており、入居者の共用空間が家庭的な雰囲気となるよう設えている。また、行動制限をせず、自由な動きが行える担保として死角が生じない様「カーブミラー」を設置し、安全面を補完している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごしていただいている。ソファやウッドデッキ、お庭などで日なたぼっこをされている方もおられる。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で長年使われていた家具やお気に入りの物を自由に持ち込んでいただいている。また、畳を敷き和室にされる方もおられる。仏壇の持ち込みも自由にしていただいている。	使い慣れた馴染みの家具や物を持ち込み、自身の部屋となるよう支援している。畳敷きの部屋にされたり、仏壇を置く等、心地よい個人スペースとなるように図っている。	今後も、利用者の状態の変化に合わせ、家族と相談しながら居心地の良い居室作りの継続を願います。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分のお部屋が分かるように手作りの表札をかかっている。できるだけ自立した生活が送れるように引き出しに入っている物を表示したり、居室内や各場所の物の置き方等も危険を予知し安全対策を常に意識している。		